宮古教育事務所便り
第105号
令和5年
12月1日（金）

宮古の風

～ 新しい風は東から ～

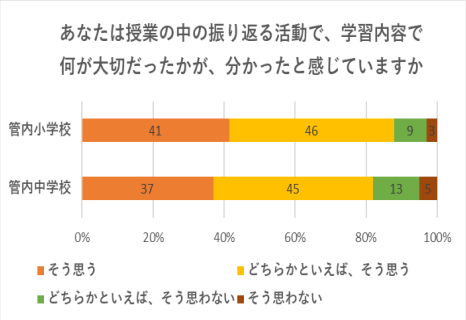
この時期になると、震災前、地域の方に教わりながら作った新巻きザケを思い出します。サケの不漁が続いていますが、地域の食文化を受け継いでいくためにも、たくさんのサケに帰ってきて欲しいと願うこの頃です。文責：阿部伸也

「つまずき」に着目した授業改善を ～岩手県学習定着度状況調査結果より～

10 月４日(水)に実施した岩手県学習定着度状況調査の管内の状況についてお知らせします。

児童生徒質問紙のNo.21「振り返り」に関する設問では、管内の小・中学校とも８割を超える児童生徒が「学習内容で何が大切だったか分かる」と肯定的な回答をしています。これは、日頃の子どもたちの頑張りや先生方の指導の成果の表れと考えます。

しかしながら、以下の観点・領域や小問ではつまずきが見られています。**児童生徒の満足度と学習内容の定着度に差が見られる状況**ですので、各学校におかれましては、より丁寧な分析と組織的な取組をよろしくお願いいたします。



	国語	算数・数学
管内小学校	**知識・技能** No.7 修飾と被修飾の関係 経年 No.10 漢字の由来、特質 経年 No.12 漢字の書き「残って」経年 **話すこと・聞くこと** No.2 司会の役割、意見の共通点に着目する 記述 **書くこと** No.7 指定された長さの文章を書く 記述 No.10 自分の考えと理由を明確にして文章を書く 記述	**知識・技能** No.1 同分母の帯分数の加法 No.3 小数の除法の計算 No.8 立方体の展開図 No.9 二次元表の読み取り **思考・判断・表現** No.17 ともなって変わる２つの量の関係を式に表す 経年 No.21 グラフを読み、正しくない理由を説明する 経年記述 No.25 直方体の体積の共通する求め方を説明する 経年記述
管内中学校	**知識・技能** No.12 漢字の読み「劣って」 No.14 単語について理解 No.19 語句に関する類別の理解 経年 **書くこと** No.5 読み手の立場に立って、文章を整える 記述 **読むこと** No.13 表現の効果を捉えて読む 経年 No.16 登場人物の言動の意味を捉える	**知識・技能** No.1 １次式の減法 $2x-(3x-2y)$ No.5 簡単な１次方程式を解く $2x-21=9x$ 経年 No.6 連立方程式を解く 経年 No.9 比例のグラフから式を求める 経年 No.11 １次関数のグラフの傾き a の理解 No.20 相対度数の表から、指定された階級の度数を求める **思考・判断・表現** No.15 垂線の作図を利用して、三角形の高さを作図する

●左の表は、**県平均よりも５ポイント以上下回っていた小問（観点・領域）**です。

●国語と算数・数学に共通して、「知識・技能」（漢字の読み書きや四則計算、簡単な方程式を解くこと等）に課題が見られます。**小学校低学年からの基礎・基本の着実な定着が求められます。**

●また、記述問題で、無解答が多く、正答率が低いことから、**管内共通の課題として、「書くこと（自分の考えを目的や意図、条件等に合わせて書いたり、説明したりすること）」**が挙げられます。

自校の調査結果の分析の進み具合はいかがでしょうか。各学校で分析する際のポイントを２つ掲載いたしますので参考にしていただければと思います。

その１　調査結果の分析は２つのアプローチで

調査結果を分析する際には、「各教科で解決すべき課題」と「学年や教科を越えて共通する課題」の２つの側面から課題を洗い出します。「各教科で解決すべき課題」とは、例えば、算数の「基準量と小数倍から比較量を求めることができる」等の教科の専門的な課題解決が必要とされる課題です。それに対して、「学年や教科を越えて共通する課題」は、「（指示に従って）文章を書くこと」や「（理由を）説明すること」等の課題であり、教育課程全体で学年や教科を越えて解決を目指すべき課題です。（令和５年度学校教育指導指針 P11 より）自校の調査結果と調査問題を見比べると、どこで子どもたちがつまずいているか（子どもたちに付けたい力）が見えてきます。該当学年や該当教科の先生だけでなく、学年や教科を越えて、子どもたちの「つまずき」を生かした授業が展開できるよう、分析結果の共有や組織的な取組の更なる推進をお願いします。

(1) 自校の調査結果から課題を洗い出します

①各教科で解決すべき課題は？
- ●国語
- ●算数（数学）
- ●英語

指導の改善に生かす

②学年や教科を越えて共通する課題は？
例：指示に従って文章を書くこと
理由を説明すること

(2) 一部の学年や教科の先生だけでなく、全職員で課題を共有し、授業を中心とした学校全体での取組につなげましょう

□ 誰が、どの時間に、どのように取り組むか明確になっていますか。
□ 取組後は、Check（評価）を行い、成果を確かめましょう。

その２　「確かな学力育成プラン」の取組を見直す機会に

各学校においては、「確かな学力育成プラン」に基づいて、主任層が中心となり、年間を通した取組を展開していただいております。

「確かな学力育成プラン」は、学期ごとに CAPD サイクルを回しておりますが、２学期の取組を【Check】する際には、ぜひ今回の県学調結果も一つの材料として検証していただきたいと思います。

各学校の子どもたちがつまずいているのは、どの部分でしょうか。県学調結果から見える「つまずき」と、各学校で設定している「学校全体で育成を目指す資質・能力」は一致しているでしょうか。日頃の取組によって、子どもたちの資質・能力に伸びは見られてきたでしょうか。「確かな学力育成プラン」は、年度途中の修正や変更が可能なものです。（修正や変更をした場合、見え消しにするなど修正箇所が分かるように記録を残しておくと、今年度の取組の評価や次年度の計画を立てる際に活用することができます。）

今回の県学調結果を「子どもの声」と捉え、これまでの取組を見直すきっかけにすると、より子どもの実態に寄り添った取組が展開できそうです。

子どもが輝く授業実践 広がる！

令和5年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修会

宮古教育事務所事業の重点である「宮古がやるべき教育の推進」における「学習指導要領を踏まえた**学びの充実**」について、「授業力ブラッシュアップ事業」は下記の教科で行われました。

【小学校算数】

９月５日（火）山田町立山田小学校を会場に管内小学校の教員 22 名の参加のもと開催しました。プロジェクトメンバー４名には、「指導と評価の一体化」の視点から諸調査の分析結果等を捉え、本県教育課題の解決を目指すアクションモデルとして、テーマを「根拠をもとに主体的に表現する力の育成」とし授業づくりに取り組んでいただきました。その提案授業を通して研修を深めました。

提案授業の授業者は、**山田小学校　山根　雅貴　教諭**が務めました。授業づくりには、**崎山小学校　小菅　智佳　指導教諭、田老第一小学校　平野　かなた　教諭、小本小学校　熊谷　勇一　教諭**がプロジェクトメンバーとして一緒に取り組みました。

児童の実態を把握し、授業者がねらいと見通しを持って授業が展開されました。評価問題が諸調査の問題に近い形で作られていることや単元全体や前学年の学習内容との繋がりを意識した授業構想、子どもたちが一人一台端末を活用し意見を交流する等、今後の実践に生かせる提案性のある内容でした。

【小学校外国語（小中をつなぐ外国語教育推進研修会）】

９月 27 日（水）山田町立船越小学校を会場に開催しました。学習指導要領に基づいた外国語教育を確実に実施するため、指導と評価、授業や校内研修の進め方、小中連携の方法等の知識の習得、小・中学校を通じた外国語教育が円滑に推進されることおよび、「指導と評価の一体化」の視点から諸調査の分析結果等を捉え、本県教育課題の解決を目指すアクションモデルとして、提案授業を通して研修を深めました。管内小中学校で外国語・英語を担当する 38 名の教員が参加しました。

提案授業の授業者は、**船越小学校　水谷　海智　教諭**が務めました。**千徳小学校　中村　邦丸　教諭、小川中学校　中村　翔　教諭**がプロジェクトメンバーとして、授業づくりに一緒に取り組みました。

研修者から、「異校種や同学区の先生との協議が自分にはない視点や考えを交流でき有意義であった。」「小学校外国語の授業を初めて参観し、それにより、小学校から中学校への接続や目指す授業をイメージすることができた。」等の前向きな感想を多数頂きました。

各教科ともモデル授業公開まで４回の研修会を重ねました。**提案性の高い素晴らしい授業をして下さったプロジェクトメンバーの先生方、大変ありがとうございました。**